

令和 4 年度 事業報告

【施設目標について】

令和 4 年度は、『報連相の強化』を目標と定め、部署・個人それぞれに取り組んでもらいました。必要な情報を必要な人に適切なタイミングで報告することは、仕事をしていく上で非常に重要なことであり、職員の中の意識は向上したと思います。また報連相を意識することで、職員同士の意思疎通もスムーズになり、職場環境向上に繋がったと感じています。

ただし、まだまだ十分なレベルには達していませんので、令和 5 年度に『報連相のための環境作り』を施設目標に掲げ、継続してレベルアップを図っていきます。

【感染症対策について】

年始に当施設にてコロナウイルスのクラスターが発生しました。丁度この時期は、退職による人員不足が重なったこともあり、職員には多大な負担を強いることとなりました。しかしながら、職員一人ひとりが自分のやるべきことを行い、各部署がフォローし合った結果、感染は1ユニットのみ、且つ収束まで 20 日程度の早期収束となりました。

これは特養部門だけではなく、施設全体が結束した結果であり、今後の施設運営を行う上での大きな糧となったと感じています。すでにV類へ移行となってはいますが、コロナウイルス自体の危険性は何ら変わっていません。利用者・家族には引き続き不便等あるとは思いますが、慎重に対応していきます。

【総括】

令和 4 年度の退所者は 30 名に上り、例年の 15～18 名の退所に比べ、極めて多い状況でした。(ここ数年の入所者の傾向として、入所時の年齢・介護度が以前と比べて高いことも一因と考えます。)結果、年始から年度末にかけて長く特養で空床が発生しました。一部ショートステイでの空床利用による穴埋めもしましたが、収益面で大きくマイナスとなっています。また、居宅系サービスの稼働率も減少となっており、こちらも苦戦する状況が続いています。

特養待機者の減少と居宅系サービス利用者の減少、どちらも先の見通しは不透明な状況ですが、引き続きサンシニアを選んでいただけるような、質の高いサービスを提供していきたいと考えております。

令和 5 年 5 月

施設長 真下和人